

視察・研修報告書

視察・研修先	住民自治の根幹としての議会の作動
日時	令和6年7月26日(金) 13時～15時30分
場所	大野城市議会全員協議会室
テーマ	議会基本条例と住民と歩む議会のもう一步
対応者 (講師)	江藤俊昭
概要	
<p>●講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会改革(理論)の急進展 —背景:地方分権改革と地方財政危機→執行だけではない政治の重要性が高まる 政務活動費支給の制度改革:議長会だけでなく、民間企業もかわる研修の充実 議会改革ランキング、地域ネットワーク ・議員の成り手不足:報酬のアップ、DX、女性の政治進出など ・議案審査:専門家招致、参考人招致のおすすめ ・一般質問—中長期提言—所管事務調査も行き、議会からの提言へと昇華させる ・討議:メリットとデメリットを抽出させる ・討論:各委員の主張を展開する。 →討議、討論を経て委員会採決、本会議採決 ・市総合計画:審議会設置、策定、運営条例の制定—一般質問でも総合計画に沿ったものを ・議案の前に勉強する→閉会中に議会はどう動くか —議会、委員会の4年にわたる行動計画の必要性 ・決算審議:総合計画は議会が議決したものとして捉える —6月定例会で行政評価(事務事業、施策)、8月に行政評価に基づき議論、理由付き提言を ○フォーラムとしての議会 ・アンケート、意見交換会、議会報告会 ・議会モニター制度、政策サポーター ・住民によるゼミナール:宮城県大和町議会—10代から70代まで参加 ・模擬公聴会(小値賀町議会、大津市議会)、市民まちづくり集会(新城市:1テーマを議論) ・コーディネート議会:テーマごとに参考人、公聴会と質問質疑、調整を行い討論、表決 <p>※アクションをどう起こして聞くかが重要</p>	
所感	
<p>これまでも JIAM、大野城市に來訪していただき、学んできた。今回は行政にアクシデントが起きた場合の対処ではなく、アクシデントが起きないようなポジティブな緊張感のある行政、議会、そして市民の関係の重要性を感じた。それが、フォーラムとしての議会で挙げられたケースである。</p> <p>しかし、ここまでの段階にたどり着くには、議会も改革していかなければならない。積極的に専門家を参考人として招致したり、それが現段階で難しくても、振り返りとして専門家を招いて講義を受けたり、総合基本計画に基づいて専門家の話を聞くこともできると思われる。</p> <p>そして、喫緊の課題だけでなく、中長期的に問題となるであろう課題についても一般質問で意</p>	

識的に取り上げて、市民にも短期的な問題だけでなく大きなスキームで大野城市を考えていただくような方法も必要だと思った。

常任委員会は任期2年であるが、その2年で本市の課題を抽出、所管事務調査および委員会視察などを通じて調査研究して、政策提言をしていく仕組み作りも必要だと感じた。

-作成者 中村 慎一郎-